

平成22年度 第38回 岐阜県高等学校選抜バスケットボール大会
 兼 第41回 全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会県予選会
 大会6日目:平成22年10月31日(日)
 会場:大垣市総合体育館

男子の部

< 審判 >

準決勝 美濃加茂 96 $\left[\begin{array}{l} 30 - 10 \\ 35 - 13 \\ 13 - 14 \\ 18 - 27 \end{array} \right]$ 64 中津川工 松野瑞穂・棚橋英一

両チームともマンツーマンディフェンスでスタートする。美濃加茂は高さに勝り、リバウンドを確実に奪うと、速いトランジションでシュートに持ち込み、赤土、范を中心に次々とシュートを決めていく。対する中津川工は出だしこそ今井、石原のドライブが決まるが、その後相手の激しいディフェンスに苦しみ、ゴールを奪うことができない。第1ピリオドは美濃加茂が30-10とリードを奪う。

第2ピリオド、美濃加茂は相手のゾーンに対して、中村、岡本、齋藤の外角シュートが次々に決まり、国本もリバウンドシュートをよく決め、さらに点差を広げていく。中津川工もディフェンスをゾーンに変えるなど対応しようとするが、インサイドでの得点ができず、今井、森の外角シュート頼らざるを得ない。前半を終わって、美濃加茂が65-23と大きくリードして折り返す。

第3ピリオドに入り、美濃加茂はベンチメンバーを多く投入し、得点のペースがやや落ちる。中津川工は、森、今井が頑張りを見せるが、点差を縮めるには至らない。

第4ピリオド、美濃加茂は赤土、横山が頑張りを見せ、ゾーンプレスを仕掛けて相手の出足を止め、前半の大量リードを守って96-64で勝ち、決勝へと進んだ。中津川工は最後まで諦めずに疲れを見せずよく走って、今井、森、原が6本の3点シュートを決めるなど必死の追い上げを見せたが、前半の失点が大きすぎた。(林 紗規子)

準決勝 富田 88 $\left[\begin{array}{l} 21 - 10 \\ 26 - 17 \\ 20 - 6 \\ 21 - 30 \end{array} \right]$ 63 岐阜総合 相宮俊郎・山田祐治

第1ピリオド、両チームともマンツーマンディフェンスでスタートする。富田は激しいディフェンスのプレッシャーをかけ、ボールを奪うと速い攻撃に出て、真里谷、羽田が次々にシュートを決めていく。さらに力強いポストプレーとファウルで得たフリースローを確実に決め、第1ピリオドは富田が21-10とリードする。岐阜総合は小西、浅野がシュートを放つが思うように決まらない。

第2ピリオド、富田は羽田の3点シュートを皮切りに、真里谷の力強いリバウンド、ポストプレー、アシストと一気に勢いに乗り、リードを広げていく。岐阜総合は小西、浅野のアウトサイドシュートで食い下がるが、インサイドをうまく攻められない。前半で富田は47-27と大きくリードを奪う。

第3ピリオド、富田 山田が3点シュート、ドライブ、リバウンドシュートと立て続けの活躍を見せる。羽田の3点シュートも決まり、さらに点差を広げていく。岐阜総合も粘り強いディフェンスから鋭いオフェンスを見せるが、最後のシュートが決まらない。富田が67-33と大量リードで最終ピリオドを迎える。

第4ピリオド、富田は余裕を持ってゲームを展開し、苦しい場面では真里谷が自らボールを運んで突破口を開き、得点をあげていく。最後は富田が88-63と前半のリードを守って勝ち、決勝へと進んだ。岐阜総合もディフェンスをオールコートマンツーマンやゾーンプレスに切りかえ、脚を使った気迫あふれる速い攻撃で巻き返しを図り、光石、大野、浅野が得点をあげて追い上げたが、前半の失点が大きく響いた。(中田真由美)

女子の部

<審判>

準決勝 岐阜女子 104 $\left[\begin{array}{c} 30 - 7 \\ 19 - 10 \\ 29 - 11 \\ 26 - 9 \end{array} \right]$ 37 高山西 津田健介・林 義貴

両チームともマンツーマンでスタート。第1ピリオド開始から岐阜女子は激しいディフェンスで相手を翻弄し、ミス誘って、松原の3点シュート、神山の速攻、野原のシュートなどで着実に加点していく。高山西はディフェンスを1-3-1ゾーンに変えるなどして試合の流れを変えようとするが、相手のディフェンスを崩せず、わずか7点に終わる。

第2ピリオドに入っても岐阜女子は、松原、神山のシュートが次々に決まり、得点を伸ばしていく。高山西は、筒井、張のインサイドを中心に攻めるが、思うようにシュートが決まらない。前半を終わって岐阜女子が49-17と主導権を握る。

後半に入り岐阜女子はメンバーを頻繁に変えるも攻撃の手を緩めず、杉浦、森澤、佐々木、長島がシュートを決めて点差を広げていく。高山西は筒井、趙のインサイドを軸に攻め、岩畑の3点シュートも決まるが、相手の速い展開に次第に疲れが見え始める。

第4ピリオド、岐阜女子はベンチメンバー全員を出場させる余裕を見せ、杉浦のインサイドの得点を中心に、野澤、安江、森のシュートなどで相手を圧倒する。最後は岐阜女子が104-37で勝利し、決勝に駒を進めた。高山西は岩畑を中心によく攻めたが、次第に疲れが見え始め、思うようにシュートが決まらず、反撃できなかった。(林 紗規子)

準決勝 県岐阜商 64 $\left[\begin{array}{c} 18 - 17 \\ 15 - 13 \\ 13 - 18 \\ 18 - 8 \end{array} \right]$ 56 長良 室谷伸治・名越龍男

第1ピリオド、互いに激しいマンツーマンディフェンスとリバウンド争いで競り合うゲームとなる。県岐阜商は高さを生かしてディフェンスリバウンドを制し、清水のインサイドプレー、山田、松尾の3点シュートでリードを奪う。長良はシュートが思うように決まらないものの、服部のインサイドプレー、大野のジャンプシュート、今尾の3点シュートで必死に追い上げる。第1ピリオドは県岐阜商が18-17と1点を先行する。

第2ピリオドに入っても県岐阜商は松尾、清水、池田がリズムよく得点を重ねていく。対する長良は相手のディフェンスに苦しみ、途中3分間ノーゴールの場面が続いたが、要所で服部、今尾がシュートを決めて追い上げる。前半は県岐阜商が33-30とリードを保つ。

第3ピリオド開始2分、長良 今尾が負傷でコートを離れると、県岐阜商はオフェンスのリズムがよくなり、一気に10点のリードを奪う。しかし、残り4分に長良 今尾がコートに戻ると、逆に長良の流れになり、服部、吉田のインサイド、そしてこのピリオドで4本の3点シュートを決めた大野の3点シュートが終了ブザーと同時に決まり、第3ピリオドでは長良が48-46と2点のリードを奪う。

第4ピリオド、両者とも激しい競り合いで一進一退の攻防が続く。県岐阜商はインサイドの清水に徹底してボールを集め、オフェンスリバウンドにも積極的に飛び込み、着実にリードを奪っていく。その後もフリースローを確実に決めるなど終始落ち着いたゲーム運びで相手に再逆転を許さず、最後は県岐阜商が64-56で勝利し、決勝へと進んだ。長良も最後まで諦めず、粘り強いディフェンスと大野のシュートで食い下がったものの、追い上げきれなかった。(中田真由美)